



この一年、子どもたちは「じぶんでやりたい。」という気持ちを少しずつ大きくしていきました。靴をはくこと、食事をする事、教具に向かうこと、毎日の中で何度も繰り返しながら、できることがゆっくと増えていきました。



(2歳2か月女の子Mちゃんのエピソード)

まだ1歳だった頃は、靴を前にしても保育士の顔を見つめ、履かせてもらうのを待っていたMちゃん。最近では、靴を自分の前に置き、「自分でする！」と声にだしながら一生懸命足を入れようとしています。時にはうまくいかずに困った表情になることもありますが、ゆっくり待っていると、何度も挑戦します。履けた瞬間、とっても嬉しそうな笑顔を見せていました。

(1歳4か月女の子Tちゃんのエピソード)

うまくいかないことがあると「できないよー！」と涙で気持ちを伝えていたTちゃん。悔しさを全身で表していました。保育者が「手伝ってと言うんだよ」と繰り返し伝え、少しずつ言葉が増え、今では困ったときには「手伝って」や「お願いします」と言えるようになりました。



1. 2才児という大切な一年を、子どもたちと一緒に過ごしてきました。

うまくいなくても繰り返し挑戦する姿。教具に向かい、同じ活動を何度も何度も続ける姿。

一見同じに見える日常の繰り返しの中に、子どもたちの大きな成長がありました。

できるようになるまで焦らず積み重ねること。小さな一歩を信じて待つこと。その時間が、とても大切だと感じています。

子どもの自主性を尊重していますが、最後まで見守り、「パンツの向きが反対だから、気持ちわるくない？」「靴が反対だから、転ばないかな？」など、子どもが気づけるような声かけをしています。

(子どもがあまりに上手にスイスイと履いてしまい、見逃してしまったことがありました。すみません。)

これからも保護者の皆様と一緒に、お子様の小さな成長を喜び合いながら、温かく見守っていただけたらと思います。

